



# たかの橋通信

医療法人社団 仁鷹会 たかの橋中央病院

広報委員会

第6巻 第2号

2011年 8月 27日 発行

## 理念

- ・ 良質で心温まる医療
- ・ 奉仕の精神
- ・ 研鑽と謙虚

## 基本方針

- ・ 患者さまの権利を守ることを第一とする
- ・ 患者さまとのコミュニケーションを大切にする
- ・ 常に医療倫理の元に行動する
- ・ 医療安全管理の基本を怠らない
- ・ 良い接遇は良い医療を生み出すことを銘記する



当院は、病院機能評価認定病院です

## 糖尿病とは

◆厚生労働省の調査(2007年)によると、糖尿病が強く疑われる人や、可能性を否定できない「予備軍」をあわせると、2210万人と推計されています。その数字は10年前の1.3倍に増え、増加ペースが加速しています。しかし、実際の患者数に比し、医療機関で治療を受けている患者数が少ないのが特徴です。糖尿病は自覚症状が少ないためにこのような状況となっているのですが、治療しないでいると、やがて全身に様々な障害をおこすのがこの病気の特徴であり、恐ろしい点です。

◆糖尿病は加齢のほか日常の生活習慣が誘因となって発症するので、「生活習慣病」といわれています。現代社会では、食べすぎ、運動不足、ストレス、アルコールの飲みすぎなど、糖尿病を招きやすい条件はたくさんそろっています。また、これらの生活習慣にかかわる誘因とともに、糖尿病の発病には遺伝的な素因も深く関係しているため、親戚に糖尿病の人がいる場合には特に注意が必要です。



◆インスリンは膵臓で作られるホルモンで、細胞が血液中のブドウ糖をとりこんでエネルギーとして利用するのを助ける働きをしています。インスリンの作用が不足すると、ブドウ糖を利用できなくなり、血液中のブドウ糖濃度「血糖値」が高くなります。これを高血糖といい、この状態が継続するのが糖尿病です。インスリンの作用不足には、膵臓のインスリン分泌能力が低下してしまうことと、インスリンに対する細胞の感受性が悪くなることの2つの原因があります。

◆自覚症状がないからと糖尿病を放置していると、高血糖は全身の様々な臓器に障害をもたらします。とくに冒されやすいのは、神経と血管を中心とした臓器で、神経症・網膜症・腎症の3つが起こりやすく、これを三大合併症とよんでいます。このような合併症を起こさないようにするために糖尿病をしっかりコントロールしていかなければなりません。糖尿病の人も血糖コントロールを続けていけば、高血糖によって起こる様々な病気を防ぐことができ、寿命も健康な人と変わりません。

◆糖尿病の検査としては、血液検査で血液中のブドウ糖濃度＝血糖値や、赤血球の中にあるヘモグロビンのうちブドウ糖と結合しているヘモグロビンの割合を表すヘモグロビンA1cを調べます。また、合併症の有無を調べるために、眼底検査、検尿、心電図検査などを行います。さらに糖尿病は高血圧や脂質異常症を合併しやすいため、血圧やコレステロール、中性脂肪などもチェックします。

◆糖尿病の治療は、合併症の発症・進行を予防するために血糖コントロールが基本となります。血糖コントロールの手段は、食事療法・運動療法・薬物療法の3つが柱となります。

糖尿病はしっかりした指導を受け、正しい治療を気長に続けることが大切です。自分自身のために日々の自己管理を絶やさず、意志を強くもってがんばりましょう。

内科医師 保澤 真紀



当院では、糖尿病専門外来として、毎週火曜日と金曜日の午前に外来診察をおこなっております。健康診断で指摘された方、これを機に受診されてみてはいかがでしょうか？

## たかの橋中央病院 地域連携室のご紹介

急速な高齢社会の到来に伴い、医療を必要とする人が著しく増加しています。このような社会情勢を背景に、病院は自己完結型医療から地域完結型医療へと、方向転換が必要になりました。地域完結型医療とは、総合病院・中核病院・かかりつけ医など地域の医療機関が、それぞれの機能毎に役割分担し、地域医療を支えていくことです。かかりつけ医として外来診療も行いつつ、入院・手術・検査・リハビリなどを一つの病院で提供するのではなく、手術は総合病院、リハビリはリハビリ病院、療養は療養型病院と治療期間ごとに地域内で分担しながら医療を提供するのです。このネットワークを地域医療連携と呼んでいます。地域医療連携の窓口となるのが地域医療連携室です。

当院地域医療連携室(地域連携室)では、治療を終えられた患者さんの退院支援(かかりつけの先生へ再紹介、別の治療・精査を必要とされる患者さんには他院紹介・受診の予約代行、介護が必要な方には老人保健施設陽だまりなど地域の施設紹介、介護サービスの案内)を行っています。また、地域の病院から当院への転入院相談受付も大切な仕事のひとつです。現在、地域連携室を構成しているメンバーは、副看護部長の川崎、医療ソーシャルワーカーの宮岡、砂本の3名です。どうぞ宜しくお願いいたします。

その他、院内医療相談室として、各種年金や障害者手帳の取得、生活費・医療費の相談からセカンドオピニオン受診、家族内介護や心理的相談など、患者さんの生活・療養上の困りごと・悩み事の相談窓口として、入院・外来問わず相談を承っております。お気軽にご相談ください。



毎年恒例の七夕飾りです。  
みなさん願い事かないました？

## 救急蘇生研修会

当院では教育委員主催で全職員を対象にした、救急蘇生の研修会を毎年開催しております。今年度は7月28日(木)、職員82名の参加がありました。入院中、外来、または病院外でも状態の悪くなられた方と遭遇する場面があるかもしれません。そのようなときの対処方法について、外科の森本医師より救急蘇生の基本を人体模型を使い演習しました。

まず、救急蘇生の基本を講義していただき、院内で起こりうる患者さんの急変に対し、人体模型を使っての実演を交えながら救急蘇生の基本を学びました。その後、2つのチームに分かれ、実際の病院内での一場面を想定したシミュレーションを行いました。救急蘇生は時間との戦いです。医師、看護師、周囲のサポートがスムーズにいくことで蘇生率が高まるので、日頃からの訓練が重要となります。

研修会の後、職員へのアンケート結果では、

- ・分かりやすく実践向けで良かった。
- ・病棟での具体的な対処が分かりやすく良かった。
- ・救急の際役立つ事が出来そう。
- ・今後もシミュレーションを学ばせて欲しい。

と様々な意見や評価がありました。

全体的に理解できたというスタッフが多かったです。シミュレーション後も人形を使って実践してみるなどして、スタッフの真剣な取り組みが見て取れました。

今後も病院として、医療従事者として、いざという時におのおのが迅速に急変時の対応ができるよう常日頃から訓練を行っていきたいと思います。



## 秋祭りのお知らせ

10月29日(土)14:00~17:00 《たかの橋ふれあい祭り》開催！！

当日は、仁鷹会名物のソーラン節や各種屋台、簡単な健康診断も！

みなさん、是非お立ち寄りください！



## 編集後記

8月も終わりとなってきましたが、まだまだ残暑は続きそうですね。熱中症にならないように、体調に十分気を付けてください。

福利厚生広報担当 塚田 佛圓